



林もとひと県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

病気の不安、医師らがアドバイス

県民に制度の周知を



2月定例県議会予算委員会で質問する林幹人県議

県民だれもが健やかに暮らせる千葉県づくりを注いでいる林幹人県議（成田市選出、4期）は2月定例県議会予算委員会で、夜間や休日に医師や看護師が電話で体の相談を受け付ける小児救急電話相談や救急安心電話相談についてその目的や実績を質問し、県民への積極的な周知を要望しました。また、待機児童解消に向けた千葉県待機児童対策協議会の役割、県民の健康増進を目的にしたチャレンジポイント事業の概要などを聞きました。林県議の質疑と県担当者の答弁を紹介します。

2月定例県議会予算委員会

林委員 救急車を呼ぶ119番に不要不急の電話が多いと問題になっている。解決策の一つがこども急病電話相談。保護者の立場からしてみれば、夜中に子ども

が熱を出した時、病院に駆け込んだ方がいいのか、それとも様子見でいいのか迷う。判断するために専門家と話をしたい、そんなときにかけるのがこの子ども急病電話相談だ。

そこです、小児救急電話相談事業についてうかがいたい。

救急安心電話相談

小児救急電話相談

#8000番 医療従事者の負担軽減にも

保健医療担当部長 小児救急電話相談事業は、平成17年9月より、15歳未満の

方を対象として、保護者の不安解消と医療機関への夜間・休日の不要不急の受診を減らし、小児科医を含む医療従事者の負担軽減を図るため、短縮ダイヤル「#8000」番で、夜間・休日に看護師や小児科医が電話相談に応じる事業です。

#7009番 62%が翌日受診や一般的アドバイス

林委員 救急安心電話相談事業の概要はどうか。

保健医療担当部長 救急安心電話相談事業は、平成29年10月より、15歳以上の方を対象として、県民の不安解消と医療機関への夜間・休日の不要不急の受診を減らし、医療従事者の負担軽減を図るため、短縮ダイヤル「#7009」番で、夜間・休日に看護師等が電話相談に応じる事業です。

林委員 多くの県民がこの番号と制度を知っているのか不安になる。そこであうかがうが、医療電話相談ダイヤルはどのように周知しているのか。

保健医療担当部長 県では、両事業について、県のホームページや広報誌、テレビラジオCM等を活用して幅広くお知らせしています。

小児救急電話相談事業については、その対象者が小児に限定されることを踏まえ、母子手帳交付時や3歳

母子手帳などに併記を

林委員 特に#7009番は私も知らなかったし、周囲の人も知らないといった感触だ。救急安心電話相談事業については、どの程度の県民が知っているか認識しているのか。

保健医療担当部長 県が平成30年度に実施した県政に関する世論調査では、7割を超える方から本事業を利用したいと回答がある一方で、本事業を知っているとの回答は、約3割にとどまっております。

林委員 一般県民が果たしてどこまで知っているのかというところなのだろうか。周知がなかなか難しいのは分かるが、私もパンフレットやチラシをこれまで目にしたことはなかった。子ども用は母子手帳を発行するときに、ガイドブックに印刷するという手はずを取っており、あるいは3歳児健診の時にこのガイドブックを出してい

児健診時に配付している子どもの救急ガイドブックに掲載しております。

また、救急安心電話相談事業については、対象者の年齢層が幅広いことからポスターやリーフレットを県内の市町村、医療機関、消防本部等に配布するなどして、県民への周知に努めております。

林もとひと県議・プロフィール

略歴	
昭和48年9月	銚子市に生まれる
平成4年3月	銚子市立銚子高校卒業
平成8年3月	玉川大学文学部卒業
平成8年5月	米国ロードアイランド州語学留学
平成10年4月	空港グランドサービス入社
平成12年4月	衆院議員・山崎拓秘書
平成15年4月	衆院議員・林幹雄秘書
平成19年4月	千葉県議会議員初当選
平成23年4月	千葉県議会議員再選
平成27年4月	千葉県議会議員3選
平成31年4月	千葉県議会議員4選

現職

- 県議会 文教常任委員会委員
- 自民党 ちば青年局長

●県政や成田市のご相談・ご要望はお気軽にどうぞ

林もとひと

県議事務所

〒286-0134
成田市東和田569 なるげや陶器ビル3階D号
TEL.0476-20-0884
FAX.020-4622-9781
Eメール:motohito884@gmail.com



Facebook 林 幹人

ホームページ 林もとひと

検索

県と30市町が対策協議会

要望
林委員 全ての市
町村で実施できるよ

うに取り組むということだが、いつまでという目標を立てないと、10年経ってもできないということになりかねない。

まずはこの事業がどのようにに進んでいるのか、今どこにいるのかをしっかりと把握することと、この事業によってどのような成果がでたのかをぜひ、確認していただきたい。この事業によって健康寿命が延びたという目に見えた成果につながるれば大変喜ばしいことだ。令和3年度以降、さらに予算額を上げてこの事業を進めていくためには、進捗の把握と成果の確認が絶対に必要だと思うので、ぜひお願いしたい。